

# 残業を増やさず事業拡大。 全業務に非常時マニュアルを作成して、 誰もが安心して休める会社へ。

## DATA

### 株式会社パワーネット

- 代表取締役社長／谷淵陽子
- 本社所在地／香川県丸亀市
- 従業員数／13人

創業1996年。資本金1,700万円。  
正社員紹介事業、社員派遣事業のほか、リーダー  
研修・生産性向上研修事業、業務を効率化するア  
ウトソーシング事業を中心に展開している。



香川県丸亀市にある派遣会社の「パワーネット」は、リーマン・ショックによる経営危機をきっかけに、社員の生活を守り抜く会社を目指した。同社の社員は大半が女性である。子育て社員の生活を考え、誰かが休んでも仕事がストップしないように、すべての業務のマニュアル化からスタートして、お互いが支え合える環境を整えていった。今、13人の社員が展開する仕事にはスキがない。日々磨き上げてきたノウハウで、家庭と仕事を両立できる職場体制を確立し、会社の業績にも好影響を与えている。

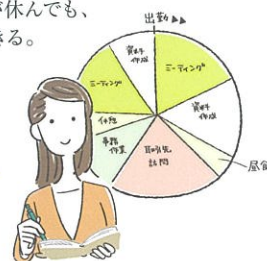
## 取組内容

### 1 全業務のマニュアル化

日常業務の大半は繰り返して成り立っているとの考えから、全業務のマニュアル化を実施。いつ担当社員が休んでも、他の社員がマニュアルを参照しながら代行できる。

### 2 全社員の机で資料の置き方を統一

会社の書庫にある資料類はすべて分類され、各社員の机の資料の配置や引き出しの中の書類の分類、保管位置も統一。



### 3 時間管理(タイムマネジメント)の徹底

毎朝、自分の1日の仕事計画を書き出すことで不急の仕事と重要な仕事の区分けを意識。完了できない場合は、他の社員の協力を得て退社時間までに完了させる習慣をつける。

## STORY 改革ストーリー

仕事と家庭の両立を実現するため、  
お互いが支え合う仕組みを構築。

リーマン・ショックの影響で存続の危機に陥っていたころ、「私は今まで何のために働いてきたんだろう」という社員の声を聞いた谷淵社長は、経営の抜本改革に踏み切った。目指したのは「社員の生活を守る会社」である。大半が女性社員の同社にとって、仕事と家庭の両立は最優先課題であった。そこでまず、全業務をマニュアル化して仕事の代行を可能にした。給与計算が大詰めを迎えたある日、「子どもが急病で出社できない」と担当社員が連絡してきたことがある。谷淵社長は迷わず「わかった。しっかり看病してあげて」と告げ、他の社員と協力して派遣先を含めた数十人分の給与計算を仕上げた。一義的には看病をする同僚のサポートだったが、誰もが「自分の仕事も支えてもらえる」「必要なときは安心して休める」と実感することになった。

「残業増やさず事業拡大」を實踐して、  
売上高は2年で1.8倍に急伸。

パワーネットでは業務のマニュアル化のほか、書類の置き場所や引き出しの中の配置を共通化し、誰でも必要なときにその業務を引き継げる体制をつくり上げた。さらに、始業前に各社員が1日の日程をすべて書き出し、退社時までのスケジュールを立てるタイムマネジメントの取組を徹底。目標達成が難しいときはチーム長に相談して応援を頼み、退社時までにはすべて終わらせることを習慣づけた。これらの成果もあって売上高は直近2年で1.8倍に拡大し、谷淵社長は「売り上げを上げるのなら残業を増やせばいい。でも私たちは家庭と仕事の両立という使命もあり、残業を増やさずに事業を拡大するという道を進んでいる」と力強く語ってくれた。



代表取締役社長

## 谷淵 陽子 (たにぶち・ようこ)

香川県丸亀市出身。産業能率大学情報マネジメント学部現代マネジメント学科卒業。香川県職員退職後、香川短期大学講師、穴吹情報専門学校講師を経て、「教育を活かした人財育成会社」、株式会社パワーネットを設立。7割を超える子育て社員で競争力の高い組織を作り上げた。NPO法人働く女性研究会の活動、善通寺市中小企業振興協議会の委員などを務める。2015年2月には、経済産業省より「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定された。

## VOICE 社員の声

## 「時間の余裕ができたうえに、毎日成長している実感があります」

青山 真由美さん

以前に勤めていた会社では、午後10時ごろに帰宅していたので家族で食事ができなかったのですが、パワーネットに転職して母親と一緒に夕食の支度ができるようになりました。また、時間に余裕がきただけでなく、効率を意識するタイムマネジメントの実践で自分が成長している実感もありますね。社内の定例食事会では、社員同士で楽しく情報交換しながら、社長の手料理をいただくのが楽しみです。



友人と休日を楽しむ青山さん(右)。仕事以外の時間は自分や家族の時間として過ごしている

## 「仕事にメリハリを付け、資格取得のための勉強も始めました」

谷淵 ゆきこさん

仕事と育児を両立したいと考え、当社に転職を決めました。営業事務にかかわる仕事を担当していますが、段取りを考えて定時の午後5時半には仕事を終えるようにしています。「モバイル勤務環境」を利用して、営業担当者の仕事の効率化にも役に立つことが、自身の仕事のやりがいにつながっています。また、子どもの急な発熱などで休むことがあっても、チームで仕事をカバーする体制ができていますので、「小さい子どもがいても仕事を続けやすい」と感じています。



家族で東京ディズニーランドでの休日を楽しむ谷淵さん(右)。家族の時間に仕事を持ち込むことはない